

特41

482

018615-000-9

特41-482

真宗両読正信偈

野村 淳龍/校

M15.7

ABF-1934



野村淳龍校合

定價金五錢

真宗

兩讀正信偈 全

京師書林 永田文昌堂藏梓

特41  
482

无量壽如來よ帰命一〇不可思議光よ南无一たてまつる。法藏菩薩の因位のととき〇世自在王佛のこともとふありて。法佛

キニヤウムリキヤジユニヨライ  
歸命无量壽如來  
ナモフカシギクダ  
南无不可思議光  
ホフダボサイニニジ  
法藏菩薩因位時  
ザイセジザイダブシヨ  
在世自在王佛所

淨土の因○國七人  
 天の善惡を都見  
 して○无上殊勝  
 の願を建立し○  
 希有の大弘誓を  
 超發せり○五劫  
 これを思惟して

トケンシヨフツジヤウドイン  
 觀見諸佛淨土因  
 コラドニンデンシセンマク  
 國土人天之善惡  
 コシリラムジヤウシエンヨウダ  
 建立无上殊勝願  
 テウホツケウダイグセイ  
 超發希有大弘誓

授受と○かたわて  
 ちりふらくの名色  
 十方よきことせん  
 ○あまねく无碍无  
 邊光○无碍无對  
 光炎王○清淨歎  
 妙智慈光○不窮

コラシナイシセウジユ  
 五劫思惟之攝受  
 ガウセイニヤウジヤウモニジツハウ  
 重誓名聲聞十方  
 フハウムリヤウムヘンクマ  
 普放无量无边光  
 ムゲムタイクマエンマウ  
 无碍无對光炎王

難思無稱光 ○ 如

日月光をもちて

て塵刹をてら

○一切の群生光

をかくふら ○ 本願

の名号ハ正定の

業あり ○ 至心信

清淨歡喜智慧光

不斷難思無稱光

超日月光照塵刹

一切群生蒙光照

本願名號正定業

至心信樂願為因

成等覺證大涅槃

必至滅度願成就

樂の願を因とて

○等覺をなり大

涅槃を證するこ

とん ○ 必至滅度の

願成就なるを ○ 如

來せよ具出した

まふゆへハ ○ た

彌陀の本願海を  
 とかんとなすを〇  
 五濁惡時の群生  
 海〇如來如實の  
 三六とを信じて  
 〇よく一念を  
 愛の心を發せしめ

彌陀の所以興出世  
 如來所以興出世  
 唯說彌陀本願海  
 五濁惡時群生海  
 應信如來如實言

〇煩惱を斷ぜしめ  
 して涅槃をう〇  
 〇凡聖逆誘を  
 〇廻入せしめ  
 衆水海より  
 一味なるがごとし  
 〇  
 如來の心光つ〇

能發一念喜愛心  
 不斷煩惱得涅槃  
 凡聖逆誘齊廻入  
 如衆水入海一味

よ照護したまふ○  
すぢよよく无明の  
闇を破さすつとくど  
も○貪色瞋憎の  
雲霧○はよ真  
実信心の天よおわ  
へり○たると日光

攝取心光常照護  
已能雖破无明闇  
貪愛瞋憎之雲霧  
常覆眞實信心天

の雲霧よおわえる  
まども○雲霧のト  
あまらみかめてやま  
なまごうごとく○信  
をえて見てうやま  
ひかちきよま  
すなご○すまひらよ

譬如日光覆雲霧  
雲霧之下明无闇  
獲信見敬大慶喜  
卽横超截五惡趣

一切善惡凡夫人  
 截と一切善惡の凡  
 夫人。如來の弘誓願  
 を聞信されば。佛夜  
 大勝解のひとりの  
 まるり。この人を分  
 陀利華と名づく。

一切善惡凡夫人  
 聞信如來弘誓願  
 佛言廣大勝解者  
 是人名分陀利華

持とることとあふ  
 難の  
 難の難これよす  
 たるいな。印夜

難中之難无過斯  
 信樂受持甚以難  
 邪見憍慢惡衆生

西天さいてんの漏ろう室しつ〇中ちゆう  
 夏か日にち域いきの高かう僧そう〇  
 大だい聖じやう具き世せの正しやう意い  
 〇如に來らい  
 の本ほん誓せき機きよ應おうせ  
 ることことををああららす  
 釈しやく迦か如に來らい楞らう伽か山さん

インドサイテンシロンガ  
 印度西天之論家  
 ニウカジチイキシカウソウ  
 中夏日域之高僧  
 ケンダイニウコウセニギウイ  
 顯大聖興世正意  
 ミウヨライホンセイオウキ  
 明如來本誓應機

ふふして〇衆しゆのため  
 よ告こく命めいしたまはる  
 〇南なん天てん竺ぢくよ龍りゆう樹じゆ  
 大だい士し世せより〇  
 ことことづくづくくくよよくく有有  
 季きのけん見けんをを摧さい破ぱせ  
 ん〇大だい乘じやう先せんのの法ぽう

シヤカニヨライリヤウガセン  
 釋迦如來楞伽山  
 井シユガウニヤウナンテンヂク  
 爲衆告命南天竺  
 リウジユダイシシツオセ  
 龍樹大士出於世  
 シツウサイハウムケン  
 悉能摧破有无見



を宣説し○歡喜  
地を説し○安樂  
生せん○難行の  
陸路くろくろこと  
を顯示し○易行  
の水道たのしき  
ことを信樂せむ

宣説大乘无上法  
證歡喜地生安樂  
顯示難行陸路苦  
信樂易行水道樂

彌陀佛のお願を  
憶念せむ○自然  
入す○入らざる必  
定なり○たゞよく  
つよ如來のまを  
を稱して○大悲  
弘誓の恩を報せむ

憶念弥陀佛本願  
自然即時入必定  
唯能常稱如來號  
應報大悲弘誓恩

べーとんり。天親

菩薩遍まつらり

てさかく。无身光

如來小帰命した

てまつらり。修多羅

ふよりて真実をま

らうて横超の大

テンジンボ サツザウロンセツ

天親菩薩造論説

キニヤウム ゲクウヨライ

歸命无身光如來

エシユタラ ケンリンジツ

依修多羅顯眞實

クウセンワウ テウダイセイダシ

光闡横超大誓願

折云願を光闡して

ひろく本願力の廻

向よりまて。群生

を度せんがためよ

一心をわくつを

功德大寶海に帰

入るべし。かなん

クワユ ホンダシキエ カラ

廣由本願力廻向

井ドグンシヤウキウインシム

為度群生彰一心

キニラクドウクダイホウカイ

歸入功德大寶海

ヒツギヤクニラダイエシユシユ

必獲入大會衆數

大會衆のかがやきよ  
 ことごとく〇蓮華教  
 世界よけることごとく  
 ねが〇すあつち真如法  
 性の身を澄せむ〇煩  
 悩の林よあそんで神  
 通を現ト〇生死の

トクニレニゲザウセカイ  
 得至蓮華藏世界  
 ソラニヤレニヨホツレヤレニ  
 即證真如法性身  
 ニウボニナカリレゲンジンツヤ  
 遊煩惱林現神通  
 ラニヤウジオンジオウケ  
 入生死箇示應化

そのふりて教化を  
 志あそとくり〇本  
 師曇鸞の梁の天子  
 〇つひの事のともあふ  
 むろふて菩薩と礼  
 たてまつる〇三蔵流  
 支淨教をさづけ

ホンシンドンランリヤウテンシ  
 本師曇鸞梁天子  
 ジヤウカウランニシヨボサツライ  
 常向鸞處菩薩禮  
 サムザウルシニニヤウケタ  
 三藏流支授淨教  
 ホンサウセンキウキラクハウ  
 梵燒仙經歸樂邦

かば○仙經を焚燒し  
て樂邦を悔したまふ  
き○天親菩薩の滯  
留解して報土の因果  
折教をあらわす凡○  
往還の因向の化力よ  
よる○正定の因なる

天親菩薩論註解  
報土因果顯誓願  
往還廻向由他力  
正定之因唯信心

信心あり○惑深の凡  
夫信心發せぬ○生  
死をさから涅槃ありと  
證知せしむ○かたから  
ば无量光明出よ  
まば○諸有の衆生を  
あましくく化らす

惑深凡夫信心發  
證知生死即涅槃  
必至无量光明土  
諸有衆生皆普化

へり○道綽を聖道の

證一がくきことと決

て○た浄土も通入を

べきこととあかひ○

善の自力勤修を貶す

○圓満の徳号專稱を

すむ○三不三信の

カウシヤクケウシヤダウナンニヤ

道綽決聖道難證

ニニヤウジヤドカツウニラ

唯明浄土可通入

ニゼンジリキヘンゴニニ

萬善自力勤修

エニニトクガウクニゼンニ

圓滿徳號勸專稱

をへん懸勸をして○

像末法滅おななく

悲引を○一生造悪を

色ども弘誓をよめる

あひめまが○安養界

ふりうてめ果を證

せむと○善守ひと

サムフ サムシケンケラシゴシ

三不三信誨懸勸

サウツホウメツドウロニ

像末法滅同悲引

イツニヤウガウアクナグセイ

一生造悪値弘誓

シアンヤウカイニヤウニクハ

至安養界證妙果

了佛の心盡とありき  
 らかませり〇定散と  
 逆惡とを種衰して〇  
 光明名号因縁とあり  
 らるは〇本願の大智  
 海に開入されむ〇行  
 者まききく金剛心

善導獨明佛正意  
 矜哀定散與逆惡  
 光明名號顯因緣  
 開入本願大智海

在うけしむ〇慶  
 の一念相應してのら  
 〇韋提とひとく  
 三惡をえ〇すあ  
 り法性の常樂と  
 澄せむとまう〇源信  
 ひろく一代の教を

行者正受金剛心  
 慶喜一念相應後  
 與韋提等獲三惡  
 即證法性之常樂

ひらきて〇ひとよ  
 安養に帰して一  
 切をさすむ〇専雜  
 の執心淺深を判  
 して〇報化二土ま  
 さしく辨立せり  
 〇極重惡人いた

源信廣開一代教  
 徧歸安養勸一切  
 専雜執心判淺深  
 報化二土正辨立

佛を稱して〇  
 されまゝかの攝取  
 のなきあれども〇  
 煩惱まをたとえ  
 てまたまらばと  
 へとも〇大悲すの  
 ことなきつね

極重惡人唯稱佛  
 我亦在彼攝取中  
 煩惱鄣眼雖不見  
 大悲无倦常照我

己れをてらうたまふり  
あんしんくよくふまけり  
 と○本師源空の佛教  
 をあきらめよ○善  
あくあんごん  
 悪の凡夫人を憐愍せ  
せんごん  
 しむ○真宗の教流と  
へんごん  
 片州は具そ○選擇本  
せんごん  
 願惡せよ○生

ホシジゲシクミヤブク  
**本師源空明佛教**  
リンミンセンアクホシブニシ  
**憐愍善惡凡夫人**  
リンシウクシヤウコウヘンシニ  
**真宗教證興片州**  
センゴクホシラシグアラセ  
**選擇本願弘惡世**

死輪轉のいへよか  
くち  
 へ名出よ○決する  
まごころ  
 疑情をわん所止  
まごころ  
 ○すまやかま無移元為  
 のまごころ入ることハ○  
しんごころ  
 かまひの信をともえ能  
くまごころ  
 入まことハ○弘經の

ゲンライシヤウジリンテンゲ  
**還來生死輪轉家**  
ケツイギシヤウ井シヨシ  
**決以疑情爲所止**  
シシラシギシヤウ井ラシ  
**速入寂靜元爲樂**  
ヒツイリンジン井ノウラ  
**必以信心爲能入**



大士宗師等〇无邊

の極濁惡を極淨

たまふ〇通俗時衆

ともよ同心よ〇た

この高僧の衆を信

ぶべし

弘經大士宗師等

拯濟无邊極濁惡

道俗時衆共同心

唯可信斯高僧說

六行すまふん  
百二十句

正信念佛偈

河津三有傳

〇其了

明治十五年七月十日出版御届  
同 年七月 刻 成

定價金五錢

京都府平民

校合者 野村 淳 龍

下京區第廿三組東松屋  
拾二番戸法光寺前住職

京都府平民

出版人 永田 調兵衛

下京區第廿三組花屋橋  
東六山町五番戸

